

財団の概要

(1) 設立及び目的

当財団は、従来から文化活動の場と機会を提供する町田市民ホールの事業運営を行っていた「町田市文化振興公社」と市民が国際交流活動の中心となって、主体的・創造的な活動を行っていた「町田国際協会」が統合され、「財団法人町田市文化・国際交流財団」として2004年4月に町田市により設立されました。

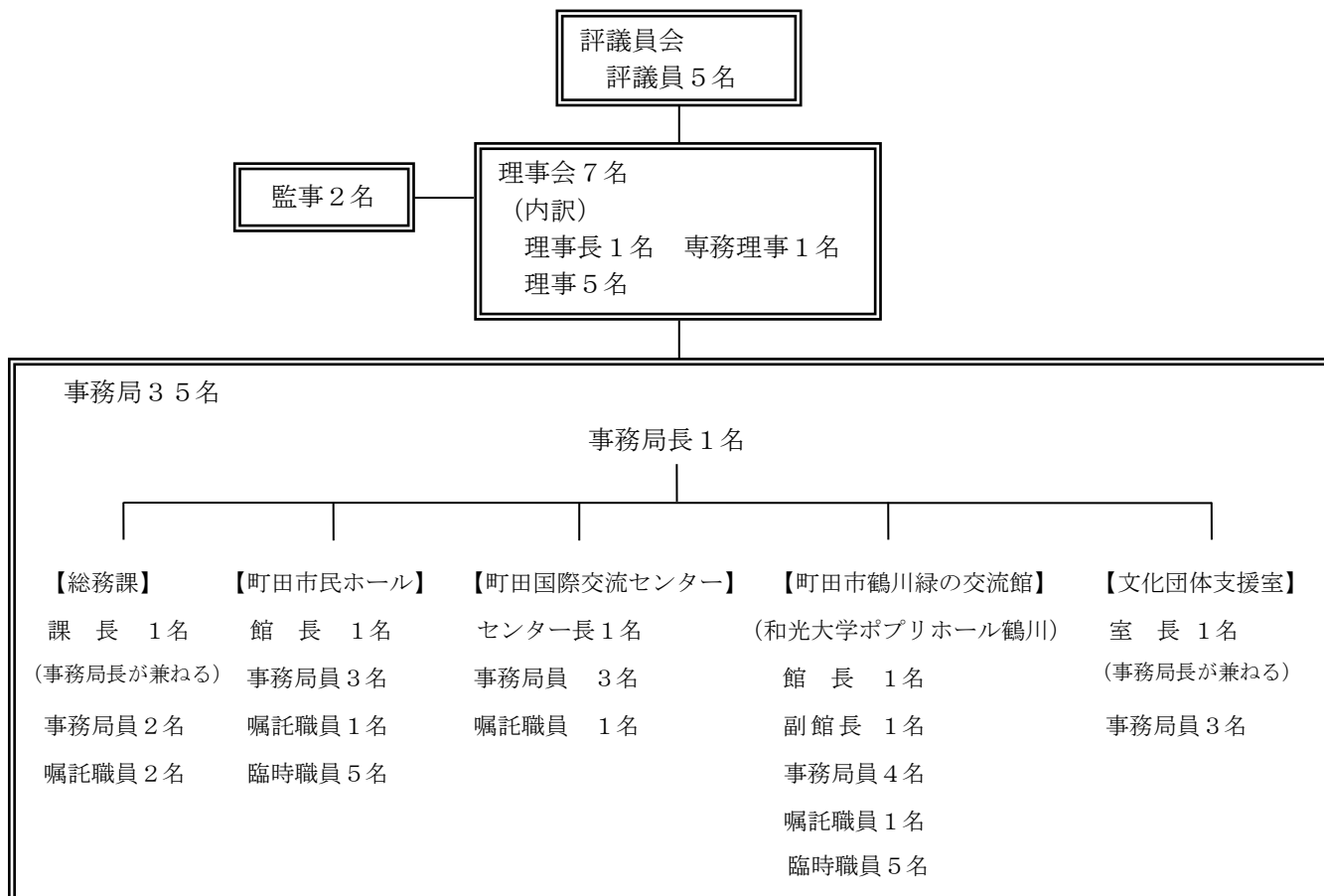
設立された財団は、「地域文化を創造し、その発展を図るとともに、市民活動充実のための支援、地域における国際交流活動の推進を図り、もって文化の香り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与する」ことを目的としております。

その後、公益法人制度の改正に伴い、2011年4月に「一般財団法人町田市文化・国際交流財団」として新たにスタートいたしました。

当財団では、町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館（以下「和光大学ポプリホール鶴川」という）及び町田国際交流センターで主な事業活動を行っています。町田市民ホールは、2006年4月から3回の更新を続け2022年3月までの指定管理者の指定を受けました。2012年9月末に開館した和光大学ポプリホール鶴川は、1回の更新を行い2022年3月までの指定管理者の指定を受けております。また、町田国際交流センターは、町田市から補助金の交付を受けて運営を行っております。

(2) 基本財産 300万円（町田市からの出捐金）

(3) 組織図 (2021年3月31日現在)



事業報告

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により財団の運営に甚大な影響を受け、事業計画の変更を余儀なくされ収入が大幅に減少する等、財団の経営状況に著しく弊害が生じました。

町田市民ホール及び和光大学ポプリホール鶴川では、臨時休館や夜間区分の利用休止、予定していた事業の延期や中止などがありました。また、町田国際交流センターでは、外国人相談を除き多くの活動を休止しました。このような中、国、東京都及び関連する協会等によるガイドラインを基にした財団のガイドライン及びチェックリストを作成し、定員を50%以下に削減する等、制限付きでの施設利用を行うとともに、手指の消毒、咳エチケットの徹底、三密の回避等、感染防止対策を徹底し、安全安心に施設をご利用いただけるよう努めました。

しかしながら、長引く新型コロナウイルス感染症の状況や施設の利用制限があるため、施設貸出の利用率が昨年度と比べて激減し、利用料金収入が大きく減収となり、財団の財務状況に多大な影響を及ぼしました。

収入を補填するため、国及び東京都の新型コロナウイルス感染症関連の給付金や助成金等に可能な限り申請し交付を受けるとともに、町田市から「指定管理者事業継続支援金」の交付も受けました。

今後も引き続き、安全に安心して利用していただける環境づくりに努め、世代を超えて楽しめる事業を積極的に取り入れ、活気のある事業展開を行ってまいります。

◎ 芸術文化及び市民文化の向上に関する事業（第1号事業）

1 文化活動の支援及び市民参加型事業

2019年4月に立ち上げた「文化団体支援準備室」を2020年4月から「文化団体支援室」に改め、市内で活躍している文化団体や市民団体の支援を推進する体制づくりを構築しました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化団体の支援を中心に活動しました。主な内容は、新型コロナウイルス感染症に関する国や東京都等の支援策や助成金等の情報提供を行うとともに、新型コロナ禍での活動再開や安全な公演実施を目指し、それぞれの文化団体に合った解決策の提案を行いました。あわせて、市内で活動している文化団体や文化活動を行う個人を市内の他施設等に紹介し、活動の場の拡大にも努めました。

また、和光大学ポプリホール鶴川では、鶴川ショートムービーコンテスト実行委員会と協力し、8月29日に開催した映画監督飯島敏宏氏のトークショーのオンライン配信に引き続き、11月23日の授賞式も、ZoomやYouTubeを駆使し、オンライン配信を行いました。

2 文化の提供事業

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くの公演が中止を余儀なくされる中、感染防止対策に十分配慮した上で、落語公演やNHKの公開番組収録等、安心して楽しんでいただける事業を市民の方々に提供しました。

○主催事業

【町田市民ホール】

主催事業として15事業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全ての公演を中止もしくは延期しました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

主催事業として19事業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から17事業を中止しました。

映画上映会「“樹木希林”を生きる」、「若き演奏家による水曜午後の音楽会第79回」については、感染拡大防止対策に十分に配慮したうえで実施し大変好評を得ました。

○共催事業

【町田市民ホール】

共催事業を16事業実施予定しておりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2事業を延期、8事業を中止しましたが、ホール公演5事業とギャラリーでの展示1事業を実施することができました。主な内容は、ホール公演では恒例になっている立川志の輔独演会、町田市では初めてのライブ開催となるバンドTUBEのメンバーで町田市出身の「春畑道哉」ソロライブ、タレントのコロケがゲストのNHK Eテレ「ハートネットTV」の公開番組収録を、定員を50%以下に削減する等、感染拡大防止対策に十分に配慮したうえで実施しました。ギャラリーでの展示事業は、多摩クラフト協会と町田市立博物館との共催で、「暮らしに寄りそうアート展」を開催し大変好評を得ました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

共催事業を12事業実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から8事業を中止もしくは延期しました。「第四十回鶴川落語会 らくご@鶴川 正蔵・喬太郎ガチンコ二人会 Vol. 8」、「柳家小はげ勉強会其の二十一」、「柳家小はげ勉強会其の二十二」、「柳家小はげ勉強会其の二十三」については、感染拡大防止対策に十分に配慮したうえで実施し大変好評を得ました。

○地域貢献事業

町田市文化協会主催により毎年行われている町田市民ホールの「町田市民文化祭 秋の催し」と、和光大学ポプリホール鶴川で行っている「新春文化の祭典 in 鶴川」が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため残念ながら中止となりました。

特に、和光大学ポプリホール鶴川では文化協会加盟の有志の方々の協力による「つるし雛」「凧」「生け花」の展示を交流スペースで行い、来場者に新春を楽しんでもらうこ

とができました。また、3階の共有スペースでは、鶴川地区の保育園のこどもたちが描いた絵の展示を行い、期間中は親子連れで鑑賞を楽しんでいただきました。

また、地域の情報発信基地としての役割として、毎月第3水曜日に交流スペースで開催している鶴川地区協議会の「3水スマイルラウンジ」は、感染症防止対策を講じた上で開催していただきました。

○協力・受託事業

例年は両ホールでの貸館による協力事業が多く行われているところですが、2020年度は町田市民ホールの陶芸作品展、和光大学ポプリホール鶴川の「オペラで巡るヨーロッパの旅」（配信あり）の2事業は実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、ほとんどの事業が中止となりました。しかしながら、市内の民間施設で開催されたヤクルトスワローズで活躍した元選手のトークショー「川崎憲次郎物語」、「加藤登紀子特別公演」等、新しい分野で事業に協力し大変好評を得ました。例年行われている「町田市民美術展」を協力事業として位置づけ、横断幕やポスターの掲出等事前周知を行うことで、以前より多くの方に鑑賞していただくことができました。

また、町田市からの受託事業としては、芹ヶ谷公園を活用し屋外で実施した「地産地SHOWコンサート」を2回行い、多くの方に屋外でのコンサートのすばらしさを実感していただきました。

◎ 町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業（第2号事業）

【町田市民ホール管理運営受託】

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月1日から6月7日まで全館休館となりました。また、2021年1月8日には緊急事態宣言の発令もあり、夜間利用の休止や利用キャンセルが相つぎ、2019年度同時期に比べ利用率は大幅に減少、ホールの利用率は48.6%、会議室は32.1%、練習室は25.0%、ギャラリーは20.1%となりました。

また、施設の老朽化に伴い、修繕が必要な箇所が増加しており、冷却塔ポンプ工事、誘導灯、非常灯交換、空調のドレン配管修理、デッキリフトの部品交換等の修繕工事を実施しました。今後も町田市が行う計画的修繕とともに施設の設備機器類の経年劣化による緊急修繕などの対応を行い、安全安心に利用できる環境整備に努めてまいります。

また新型コロナウイルス感染症対策として、正面入口のサーマルカメラ設置や諸室に消毒液の設置など、安全安心に利用できる環境整備に努めました。

【和光大学ポプリホール鶴川管理運営受託】

和光大学ポプリホール鶴川は、2012年9月29日のオープン以来8年半が経過しましたが、2020年度はコロナ禍において施設の利用者数が下回るものの、市民団体、企業、財団主催及び共催などの多種多様な形態での利用がありました。しかしながら、町田市民ホールと同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止による4月1日から6月7日までの全館休館、2021年1月8日の緊急事態宣言の発令以降の夜間区分利用の休止等が

利用率に大きく影響し、ホールの利用率は58.9%、多目的室は33.3%、練習室(3室)は36.1%、会議室(4室)は43.6%、エクササイズルームは51.2%になりました。

雨漏り修繕、各種点検業務などの施設管理にあわせ、防犯・防災に注視した日常管理を行い、また新型コロナウイルス感染症対策として、正面入口のサーマルカメラ設置や諸室に消毒液の設置など、安全安心に利用できる環境整備に努めました。

◎ 地域における国際交流活動の推進事業（第3号事業）

町田国際交流センターでは、7つのボランティア部会が中心となって国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくという多文化共生社会の構築のため、4分野の事業を企画しました。

地域文化の創造と国際交流の促進・まちづくりの視点から、子ども教室や日本語教室、相談事業等の外国籍住民への支援事業や国際理解・国際交流事業を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2020年2月中旬から、一部の部会活動を除き活動を中止しました。但し、新型コロナウイルス感染症拡大により生活支援が必要な外国籍市民のために、外国人相談部会は活動規模を縮小し実施しました。

2021年4月1日現在、101ヶ国7,209人(町田市の人口の約1.7%)の外国籍市民が町田市に居住しています。2020年4月1日と比較すると、263人増加しており、国籍別では、中国2,755人(38.2%)、韓国987人(13.7%)、ベトナム641人(8.9%)、フィリピン625人(8.7%)となっております。昨年と比べ、国籍別登録者数でベトナムの方の登録者数が初めてフィリピンの方の登録者数を上回りました。

(1) 分野別事業活動

① 外国人支援事業

日本語教室は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、対面支援で行っていた活動を中止しました。

新たな試みとして、オンライン(Zoom)による支援環境を整備しました。その中で、日本語教室部会では「オンライン学習活用委員会」を9月に立ち上げ、12月からオンラインによる支援を始めました。支援者32名がオンラインによる学習者19名に延べ240回の支援を行いました。

子ども教室では、9月に支援者へのオンライン研修会を開催し、10月より試験的にオンラインによる支援を行い、2021年1月より本格的に支援活動を始めました。オンライン学習に参加した子どもは6名、支援者14名、学習回数は20回実施しました。

外国人相談部会では、規模を縮小し電話やオンライン、対面による外国人のための生活相談等を週3回実施し、相談件数は78件ありました。2月に町田国際交流センターで実施した東京都主催の「外国人のためのリレー専門家相談会」には8件の相談がありました。

その他、町田市民病院等への同行通訳は22件、町田市等からの翻訳依頼は16件ありました。また、外国籍住民の相談が多岐に渡るため、あらゆる相談業務に的確、円滑に対

応できるよう外部講師による研修会を4回開催し、相談部会員延べ76名が参加しました。

② 国際理解事業

外国人支援と国際交流への貢献を目指し、合わせて異文化理解の一環として、5言語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語）9サークルを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりすべて中止しました。あわせて、国際理解のための懇談会等も中止となりました。

小・中学校の総合学習の一環として行われている国際理解教育の支援のため、中国、アメリカ、ペルーの外国人ボランティア5名を派遣し、226名の児童・生徒が参加し国際理解を深めました。

③ 国際交流・協力事業

国際交流部会が開催している事業は、外国人のためのバスツアーや国際交流パーティーなど、多くの外国籍住民及び日本人が参加する事業のため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から部会活動をすべて中止しました。

国際協力事業としては、毎年11月に開催している町田発国際ボランティア祭「夢広場」がありますが、毎年600名を超える参加者があるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し中止しました。

④ 情報提供・連携事業

町田国際交流センターの活動を広くPRするため、毎年5月に町田市役所のイベントスタジオで、10月に和光大学ポプリホール鶴川の交流スペースでボランティア活動内容の紹介及び展示を行っていましたが、多くの市民が来場するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しました。しかしながら、2020年12月には町田市主催の「まちカフェ」の参加プログラムとしての外国語（英語・中国語・韓国語・スペイン語）体験講座「ちょっと体験！話してみよう外国語」を開催し、感染症対策を万全に行う中、22名が参加しました。

町田市生涯学習センターとの協力事業では、2021年2月に開催された「外国のダンスとお話と」に参加しました。

また、町田市及び町田市介護人材開発センターと協力し、2021年2月に海外と日本をオンライン（Zoom）で結んで実施した「海外の介護を目指す学生と町田市の介護施設との交流会」に参加しました。海外からは4か国（モンゴル・ベトナム・フィリピン・中国）74名が参加し、町田市からの参加者は31名でした。

◎ その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第4号事業）

〔広報事業〕

町田市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川及び町田国際交流センターの事業を広く市民にPRするため、財団情報誌「コンサートガイドまちだ」を年5回、「ぼろんていえ」を年6回発行しました。

また、ホームページ、広報まちだ、市内各所にある掲示板へのポスター掲示や横断幕などにより、市民に様々な形で情報提供を行いました。

〔チケットシステム〕

2017年6月から「かわせみオンラインチケットシステム」で導入しているインターネット予約によるコンビニエンスストア（セブン・イレブン）でのチケット受け取りを推進しました。その結果、2021年3月31日時点の会員登録者数は13,662名で、2020年3月31日と比較すると、378名増加しました。

〔レストラン・カフェ運営〕

町田市民ホールにて「レストラン」を運営していますが、年間営業日数160日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年4月1日から8月31日まで臨時休業を行い、9月1日から平日はランチのみの時間短縮営業、土日祝日を臨時休業）で、総客数6,727名の利用がありました。

また、和光大学ポプリホール鶴川にて「カフェ」の運営を行い、年間営業日数272日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日から6月7日まで臨時休業、6月9日から6月29日と2021年1月8日から3月31日までは閉店時間を早め、短縮営業）で、総客数21,472名の利用がありました。

〔人材育成〕

例年、学生インターンシップ及び中学生の職場体験の受入れしておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

また、財団では「第二期（2021年度～2025年度）人材育成基本方針」を2021年3月に定め、職員がこれまで以上に経営課題に対応できる人材ビジョンを形成し、モチベーションアップにつながる行動規範等を示し、今後の人員配置や職員研修を実施することとしました。

〔その他〕

2020年度より町田市内産農産物の地産地消への協力のため、町田市民ホール及び和光大学ポプリホール鶴川の入口にクックパッドマートステーションを設置しました。あわせて、両館の共有スペースに東京都住宅供給公社の住宅情報を配置し、来館者に提供しています。

また、町田市民ホールでは正面入口エントランスに、町田市の自転車対策への協力としてシェアサイクルの駐輪場（サイクルポート）を提供しています。